

特集
人権を考える
part 2

市民一人ひとりの
人権が尊重された
心豊かな地域社会をめざして

山口県人権推進指針



すべての人権課題の

解決に向けて

市では、「長門市人権教育推進委員会」を中心に、人権を誰にでも関わる大切な問題としてとらえ、地域に密着したきめ細かい人権教育・人権啓発活動を推進しています。

今年度は、「山口県人権推進指針」に掲げられている人権課題の解決に向けた取組を念頭に、人権教育セミナーと人権フェスティバルにおいて幅広く人権課題に向き合うことで、市民への啓発に努めました。

本市においても、さまざまな人権課題が存在します。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、あらゆる価値観や生活様式が大きく変化しました。

その概要を紹介します。

留学生の目線から多様性を考える

第3回長門市人権教育セミナー

～第43回日置地区あたたかいふるさとづくり研修大会～

■開催日 12月4日(日) ■参加者 約110人

■場所 日置農村環境改善センター 多目的ホール

開会行事では、日置女声合唱団「白い風車」による合唱が行われ、続いて長門市青少年育成市民会議日置支部長から、「絵手紙」優秀作品の表彰があり、11人の園児・児童・生徒に賞状が授与されました。

日置地区の小学校児童、中学校・高校の生徒による意見発表も行われました。

講演会では、梅光学院大学の学院長・学長の樋口紀子さんが「留学生の目から見た山口～ここが困った、ここが好き～」という演題で講演を行いました。



参加者の声

職場に中国の人がいて、本当はいろいろと話したいけれど言葉が理解できなかったらどうしようと思うと話しかけることができませんでした。今回のお話を聞いて、こちらから話しかけたいと思いました。外国人に対する偏見が少しでもなくなるといいなと思います。

参加者の声

ルールづくりは本当に大切だと思うと同時に、親も子どもと楽しみながら付き合っていくことでネットだけに依存しないことを身を持って感じてもらいたいなと思いました。

子どもに教える立場として大人も情報を見極める目を身につけていかなくてはならないと思いました。

子どもの話に耳を傾けることができる大人になることが大切だと感じました。親と子の関わりが大切ですね。子どもとふれあう時間をもっとつくろうと思います。

私たち大人も勉強しないといけないと思いました。「SNSを使うな」とは強く言えない時代なので、安全に使うすべてを教えていこうと思いました。

目に見えない新型コロナウイルススへの恐怖は、不確実な情報の氾濫を招き、誤った考え方や思い込み、さらには偏見など人間の意識に起因する、いわゆる「コロナ差別」といった新たな人権課題を引き起こしています。

このような状況を踏まえ、すべての人々の人権が尊重された社会の実現を目指していくためには、市民一人ひとりが人権尊重の理念について正しく理解する必要があります。そのためには、日常生活において、人権への配慮がその態度・行動に表れるような人権感覚や、人権の大切さに気付く豊かな感性を育むことが重要です。

市では、身近にある人権課題の現状把握や課題解決に向けた具体的な対策として、各種人権教育セミナーや人権フェスティバルの機会を活用して、積極的に市民への啓発に取り組んでいます。

今年度当初は、セミナー3回とフェスティバル1回を計画していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、セミナー2回とフェスティバル1回の開催となりました。

令和4年度活動報告

今年度はセミナーを2回、フェスティバルを1回開催しました。

障害者スポーツ「チャレンジド・スポーツ」から学ぶ

第1回長門市人権教育セミナー

■開催日 6月25日(土) ■参加者 約170人

■場所 三隅中学校 体育館

山口県障害者スポーツ協会会長の藤田英二さんを講師として「チャレンジド・スポーツについて」という演題で講演会を開催しました。

講師の藤田さん自身の豊富な経験をもとに、障害者スポーツで大事なことや考え方、「大事なのは一人でも多くの障害のある人が人生の勝利者になること」「人間の可能性に挑戦する」などの話がありました。

参加者は、最後まで熱心に、講師の話に耳を傾けていました。

参加者の声

「障害がハンデになるかどうかは、環境によって決まる」という言葉が心に残りました。アイデアを出すこと、環境を整えることが大事であると教わりました。日々の生活の中で、心に留め行動できるようにしたいです。



ネットの被害者・加害者にさせないために、スマホ時代に大人ができること

長門市人権フェスティバル

■開催日 11月13日(日) ■参加者 約210人

■場所 ラポールゆや 大ホール

長門市人権フェスティバルでは、はじめに、「男女共同参画標語・キャッチフレーズ」の表彰、山口県人権啓発活動地域ネットワーク協議会による「人権の花」の表彰、「人権作文」の表彰・発表を行い、長門保護区保護司会による更生保護、人権教育推進委員会による同和問題についての話がありました。

その後、奈良地域の学び推進機構・理事の石川千明さんが「スマホ時代の子どもたちに、大人ができること」という演題で講演を行いました。

石川さんは、奈良県生駒市で子育て支援グループ「いこま育児ネット」を設立し、現在も活動しています。また京都府警察ネット安心アドバイザーのリーダーなどを歴任しています。「子どもたちをネットの被害者にも加害者にもさせないために周りがどう関わればよいか」、「どうすれば子どもの『困った』に気付く、支援できるか」など石川さんの豊富な経験をもとにお話があり、参加者は多くの学びを得ることができました。

当日は菱海中学校も人権学習参観日のプログラムとして全校生徒が講演会に参加しました。

